

<スーパーコップフットサルin群馬 with K9プロジェクト>

開催日 2009/8/16 **会場** 前橋市民体育館

参加者 一般(日系ブラジル人・日本人)10チーム:約100人 小学生2チーム:約20人 観客:約50人

昨年、日本-ブラジルの移民100周年記念事業としてプレ大会を行い、今回から第1回大会として開催。北関東のフットサル普及に努める“Alta vita sport”高島氏とK9の普及活動の想いが合致し、協力が実現。

関東2部リーグなど一般競技チーム、日系ブラジル人チーム2チームを含めた10チームが参加して行われた今大会。群馬県には約2万名弱の日系ブラジル人が在住しており普段接点が無い県民同士がスポーツ(フットサル)を通じて交流を図る事も目的として開催されました。

当大会の注目とも言える日系ブラジル人チーム

「Mini Shop BRAZIL」「Saitake futsal Brasil」はさすがのプレー。日系ブラジル人達の勝負への執念と強い団結力、そして体の芯までしみついた「本物のフットサル」が、日本フットサル界に多くのものをもたらしてくれたのは間違いありません。

決勝トーナメント前に行われた小学生「Cloud/tonan前橋 vs Longest本庄」の第1試合と、目の前で繰り広げられる「本物のフットサル」を見た後の第2試合。子供達は明らかにプレーに変化が見られました。第2試合では相手シュートをスライディングでブロックするシーンも見られボールや相手に対する執念など、「こぞ」という場面で非常に集中したプレーが。

ハイレベルで気持ちの入った熱いトーナメントに触発され、子供同士とはいえそこには「本物のフットサル」と呼べる戦いがありました。普段なかなか目にする機会のない「本物のフットサル」を目の当たりにした子供達のプレーの変わりようがこの大会の持つ力を誰よりも雄弁に語ってたとと言えるでしょう。

正に「群馬県の競技レベルの向上」というコンセプトを反映したハイレベルな大会となりました。



↑優勝した「Saitake futsal Brasil」と準優勝のK9チーム。決勝前の一枚。



「最近問題になっている出稼ぎ労働者の派遣切りなど明るいニュースが無い中、彼らに活力を与える一つのきっかけになれば」と語る高島氏。↑

<小笠原—東京交流戦>

開催日 2009/8/17 **会場** 渋谷東急アディダスフットサルパーク

参加者 小笠原の小学生:約30人 東京の小学生:約30人 観客:約40人



年1回、夏に行われる東京都の島々の大会、アイランドリーグ。神津島で行われる予定が新型インフルエンザの関係で中止に。

年に一度の大会、6年生にとっては最後の大会。子供達の落胆はさぞ大きかったことでしょう。

そこで、春に小笠原を訪れフットサル教室を行った相根澄が子供たちになんとかチャンスをとの想いで東京の子供達との交流戦が実現。

急ながらも各方面の方々にご協力いただき大会形式で開催出来る運びとなりました。

「澄くん

今回の招待、本当に、本当にありがとう。心から感謝します。今年6年生の女の子5人は島という環境の中、対外試合はおろか島の中での練習試合も経験できない子ども達です。この子たちはただボールを蹴るのが楽しくて上手くなりたくて、早起きして家の前でボールを蹴っていたような子たちでした。彼女らの三年越しのチャレンジがただに本当に胸が痛んでいました。

それだけに今回のお誘いは感激でした。

みんなの心にもいつまでも残るものになるはずです。

本当にありがとう。澄に感謝、母島の子も達と澄が出会えたことに感謝です。」

(宮澤 貫・FCフォルサ母島監督)

